

より』の欄は無益なりと思ふ存在の必要ありや四 『みづゑ』創刊以來雨の繪なし、十日に二日は雨が降る、先生方の得意もあらんが雨の繪なきは横着ならずや、小生如きなまげものも日和の繪に對して二枚位は畫いてゐる、雨の繪、夕陽曙光など見せて貰いたし(佐々木眞太郎)◎一 繪具の新古よりも描法によるなり、一ヶ所を幾度もコースりつけたり、不透明な色を多分に使用する繪がドライになる、但繪の具もあまり古いのけりスリンを混ぜて、練直したらよからん二 忠實といふのは何も角も見えた通りといふ意味ではない、寫眞のやうなもの博物の標本のやうなものを描けといふのではない、一本の線を引くのでも定木をあててやつたのでは線が死んで仕舞ふ、極々の初學の人に勝手な仕事をやらせると危険だから忠實といふことをいふが、色をつけて寫生の出来る位ひの人は多少繪をかいてゐるといふ考があつて欲しい、一本の線でも器械的に無意味になつては困まる、繪のムツカシイ處は此處にある、筆にも口にも云ふことが出来ぬ、繪といふものは悟るもの

である、地方に在て直接師に就くことの出來ぬ人は、多く名家の繪を見て自分で悟るより致方なし三 『編者より』の欄は重に畫の短評なるが、特に『みづゑ』中繪として寄贈し來るものを採用せぬ場合に、その儘採擷なしも氣の毒なれば、時に餘白ある場合に短評を試むるのみ、故さらにこれが爲めに一欄を設けしといふにあられば差支なしと思ふ四 何等深き理由あるにあらず、編者の手に雨の繪によきもの集らざるが爲めなり。序に畫家といふものは何でも描ける筈なるが、夫々専門ありて、自己の好まぬ畫題あり、雨の繪なしとて横着呼はりは當を得ず、但夕陽曙光によきものを得ば掲出すべし■會友にして作品批評を請ふべき紙數及繪の大きを知りたし、又募集繪畫の大きさは如何(北總生)◎毎月三枚にして大きさに制限なし、但大なるもの、外は巻きて送るべからず、又募集の繪は寫眞版の分は大ひさ自由、申繪は四寸と六寸以下

讀者の領分

■由井君、高巢君、筒井君、木内君、鹽島

君健在なれ。『みづゑ』愛讀諸君よ、陸續肉筆繪葉書の交換を望む但粗末なるものは御斷り(秋田市茶町梅の町河村金治)■『みづゑ』三十八より四十一迄をミレー畫譜一部十二枚と御交換を乞ふ(長野縣上田町原町三丁目關正造)■『みづゑ』第一より四十二迄を僕所藏の全紙水彩畫一枚と御交換を請ふ、次に手本や美術雜誌と肉筆水彩と御交換を請ふ(和歌山市北休賀町近藤清一)■眞面目なる繪葉書交換を願上候、次にスタヂオ圖案年報一九〇七年分原價七圓五十錢のもの格安に譲りたし(福井市日の出上町三樋口方樋口敏子)■大日本繪畫講習會發行洋書講義錄全部安價譲りたし(小樽區新富町六八、金子健三)■繪ハガキ競技會の開會を望む(函館小島虎太郎)◎近來佳作の出品なく當分見合せの筈■光風三年一號をワツトマンハツ切風景畫二枚位にて御交換下さる方なきや、次に繪ハガキの交換希望(米澤市免許町下千三百八佐藤周子)■『みづゑ』第三、第五を一部三十錢宛にて譲つて下さい(兵庫縣明石町枝吉延太郎)